

『この方こそ生ける神』(ダニエル書 6章 10-28節) 2021.11.21.

<はじめに> 「神はおられる」と信じていても、今、この私の置かれている現実の中に神は生きておられ、力強く働かれていることを確信しているでしょうか。祈ることは日常で、自分を取り巻く全てはこの方の許に置かれていると神を信頼するダニエルの姿を見ました(10)。今日はその続きです。

I 穴へ投げ込まれる(10-18)

①思惑通りの進展

禁令の制定を王に求めた大臣と太守たちの思惑通りに、ダニエルはいつものように神に祈るのを見つけ、王に訴えて禁令の執行を迫ります。王はここで彼らの真意に気が付き、ダニエルを助け出そうとしますが、時すでに遅し、ダニエルは獅子の穴に投げ込まれます。

②愚か者の祈り(16)

自らも変更できない法令を制定する王の姿は愚の骨頂で、神を無視し逆らう人の姿です。イエスもそれを見て、祈っておられます(ルカ 23:34)。王が期待できるのは、ダニエルが伝える神に祈ることのみでした(16)。十字架上でイエスに祈る強盗もそうです(ルカ 23:42)。

③祈りは聞かれなかったのか

祈ることで、常に未然に事が収まり、助けが間に合うなら、どんなに良いでしょうか。残念ながら、正しい者が偽善によって虐げられ、殺されることさえあります(マタイ 23:34-36)。しかし、それで最終結論ではありません。永遠の神の機会と方法はまだ残っています。

II 穴から引き上げられる(19-24)

①夜明けとともに

翌朝早くに王は獅子の穴に近づき、呼び掛けます。「ダニエルよ、いつも仕えている神はおまえを救えたか」と(20)。穴の奥からのダニエルの声に、王は歓喜して彼を引き上げるよう命じます。さらに王は中傷した者らを獅子の穴に投げ込むよう命じます。

②神の前に潔白(22-23)

潔白な者にも非難・中傷は浴びせられ、不当な裁定は今に至るまで止みません。神はこれに黙っておられるわけではありません。ダニエルを無傷で引き出すことで証しされます。イエスも十字架で殺されましたが、神はこの方をよみがえらせました(使徒 2:23-24)。

③主にゆだねよ(詩篇 55:22-23、I ペテロ 4:19)

「あなたの重荷を主にゆだねよ。主があなたを支えてくださる。主は決して正しい者が揺るがされるようにはなさらない」。「ですから、神のみこころにより苦しみにあっている人たちは、善を行いつつ、真実な創造者に自分のたましいをゆだねなさい」。

III 平安が豊かにあるように(25-28)

①ダレイオス王の賛美

異国の王がダニエルの神を「生ける神、永遠におられる方」と崇め、天も地も治める御方と認め、賛美をささげます。信仰者の普段の営みと姿勢を通して、生ける神が人々にも明らかにされて、彼らが神をほめたたえるようになる、これが神の計画です(ピリピ 2:9-11)。

②しるしと奇跡(27)

衆目に顕著なしるしと奇跡を求める時代は、実は神への不信仰がはびこる時であることは、私たちも注意しなければなりません(マタイ 12:39、ヨハネ 4:48)。主イエスの来臨と十字架・復活に、それによって日々生かされている私のうちに生ける神を見出せていますか。

③生ける神とともに歩む

しるしと奇跡が起こるときだけでなく、神は今も常に生きておられます。イエスを信じる者のうちに住まわれ、語り掛け、導きさとし、祈りに耳を傾けて応えられる方を、日々の生活の中で生ける神を実感する、これこそダニエルに倣うことではないでしょうか。

<おわりに> 捕虜となり異国で生きることを余儀なくされたダニエルたちは、生ける神に気付かず逆らうこの世に生きるイエスを信じる者と重なります。「死にかけているようであっても、見よ生きており…殺されておらず…すべてのものを持っています」(II コリント 6:8-10, 4:7-15)。(H.M.)